

科目名	日本語基礎		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	EDa0001		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の導入にあたる。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習する。1年次後期科目「日本語表現」を学ぶにあたっての基盤となる科目である。

##### 科目の概要

日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際には、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

##### 学修目標（到達目標）

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学びを活かすことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。  
なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 ( 尊敬語・謙讓語・丁寧語 ) 【グループワーク】
3	敬語 2 ( 場面や状況に応じたことばの使い分け ) 【グループワーク】
4	敬語 3 ( 間違いやすい敬語 ) 【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 ( 活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ ) 【グループワーク】
7	文法 2 ( 接続語・助動詞・助詞 ) 【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 ( 言葉と言葉の関係 ) 【グループワーク】
10	語彙 2 ( 類義語・対義語 ) 【グループワーク】
11	言葉の意味 1 ( 多義語・言葉の使い方 ) 【グループワーク】
12	言葉の意味 2 ( 慣用句 ) 【グループワーク】
13	表記 ( 漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り ) 【グループワーク】
14	漢字 ( 語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語 ) 【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)、授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)、期末テスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、任意ではあるが、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受験を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡をする。

科目名	日本語基礎		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	EDa0001		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の導入にあたる。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習する。1年次後期科目「日本語表現」を学ぶにあたっての基盤となる科目である。

##### 科目の概要

日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際には、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

##### 学修目標（到達目標）

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学びを活かすことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。  
なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 (尊敬語・謙讓語・丁寧語)【グループワーク】
3	敬語 2 (場面や状況に応じたことばの使い分け)【グループワーク】
4	敬語 3 (間違いやすい敬語)【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 (活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ)【グループワーク】
7	文法 2 (接続語・助動詞・助詞)【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 (言葉と言葉の関係)【グループワーク】
10	語彙 2 (類義語・対義語)【グループワーク】
11	言葉の意味 1 (多義語・言葉の使い方)【グループワーク】
12	言葉の意味 2 (慣用句)【グループワーク】
13	表記 (漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り)【グループワーク】
14	漢字 (語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語)【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)、授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)、期末テスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、任意ではあるが、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受検を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡をする。

科目名	日本語基礎		
担当教員名	宇野 和		
ナンバリング	EDa0001		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の導入にあたる。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域の内容をテキストを用いて学習する。1年次後期科目「日本語表現」を学ぶにあたっての基盤となる科目である。

##### 科目の概要

日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけでなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストに掲載されている問題を解き、より正確な日本語力を身につける。問題を解く際には、ペアワーク、グループワークを行い、当該問題の正答、誤答について相互に説明しあう。また、随時、確認テストを行い、知識の定着をはかる。授業の最終週では総合問題に取り組み、定着の程度を確認する。さらに、リアクションペーパーを活用し、授業内容について共有すべき記述については、翌週取り上げる。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

##### 学修目標（到達目標）

- (1) 基礎的な日本語の知識を身につけ、テキストで出題された問題の正誤を解説することができる。
- (2) 日本語検定3級に合格する力を身につけることができる。
- (3) 日本語の運用に関心を持ち、実生活で学びを活かすことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

ペアワークやグループワークを行い、普段意識することのない日本語の正誤について確認する。

なぜ正解なのか、なぜ間違いなのかをペアあるいはグループで議論し、正しい日本語運用能力を身につける。

1	オリエンテーション 日本語を学ぶ意義を考える【リアクションペーパー】
---	------------------------------------

2	敬語 1 ( 尊敬語・謙讓語・丁寧語 ) 【グループワーク】
3	敬語 2 ( 場面や状況に応じたことばの使い分け ) 【グループワーク】
4	敬語 3 ( 間違いやすい敬語 ) 【グループワーク】
5	敬語の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	文法 1 ( 活用・可能動詞・受身・使役・文のねじれ ) 【グループワーク】
7	文法 2 ( 接続語・助動詞・助詞 ) 【グループワーク】
8	文法の学習のまとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	語彙 1 ( 言葉と言葉の関係 ) 【グループワーク】
10	語彙 2 ( 類義語・対義語 ) 【グループワーク】
11	言葉の意味 1 ( 多義語・言葉の使い方 ) 【グループワーク】
12	言葉の意味 2 ( 慣用句 ) 【グループワーク】
13	表記 ( 漢字・送り仮名・仮名遣いの誤り ) 【グループワーク】
14	漢字 ( 語構成・形の似た漢字・同音異義語・同音異字・同訓異字・四字熟語 ) 【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの分野の解説部分に目を通す。また、知らない表現や関連表現について辞書で調べ、文法力や語彙力を身に付ける。(各授業に対して60分)

【事後学修】間違った問題、理解が浅い内容について、再度問題を解いてみる。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

「敬語」と「文法」の学習後に行う確認テスト(20%)、授業中に課す課題への取り組み(解答ならびに導いた解答に対する解説)(20%)、期末テスト(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】日本語検定委員会編(2010)『ステップアップ日本語講座 中級』東京書籍

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

知識の定着を確認するために、任意ではあるが、日本語検定3級(毎年6月、11月に実施)の受験を推奨する。

総合評価60点以下の場合は再試験を行う。該当者には個別に連絡をする。

科目名	日本語表現		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	EDa1002		
学 科	教育人文学部 (E) - 文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現 (2年次)、日本語表現 (3年次)の基盤となる科目である。

##### 科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題 (自己PR文、意見文、報告文など) に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

##### 授業の方法 (ALを含む)

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文 (400字~800字) に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】 【グループワーク】 【レポート (表現)】

##### 学修目標 (到達目標)

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組み。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	EDa1002		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基盤となる科目である。

##### 科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文（400字～800字）に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

##### 学修目標（到達目標）

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組み。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	稲葉 美樹		
ナンバリング	EDa1002		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現（2年次）、日本語表現（3年次）の基盤となる科目である。

##### 科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己PR文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文（400字～800字）に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

##### 学修目標（到達目標）

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組み。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本語表現		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	EDa1002		
学 科	教育人文学部 (E) - 文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、一連の日本語科目の基本にあたる。前期「日本語基礎」で修得した語レベルの日本語知識を活かし、文章レベルで目的や相手に合わせたわかりやすい日本語を書けるようにする。日本語表現 (2年次)、日本語表現 (3年次)の基盤となる科目である。

##### 科目の概要

相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題 (自己PR文、意見文、報告文など) に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。

##### 授業の方法 (ALを含む)

テキストの課題をペアあるいはグループで取り組み、相手や目的に合わせた文章を作成する。作成した文章については、ペアあるいはグループ毎に発表し、相互の工夫を共有、自らの表現の改善を目指す。あわせて、授業外学修として作文・小論文 (400字~800字) に取り組み、添削を受け、推敲を重ねる。また、リアクションペーパーの提出に関して、共有すべき内容については、授業中に取り上げる。

【リアクションペーパー】 【グループワーク】 【レポート (表現)】

##### 学修目標 (到達目標)

- (1) 自己PR文、意見文、報告文など各種文章の目的を理解し、その目的を達成する文章を書くことができる。
- (2) 自ら書いた文章を点検・推敲することができる。
- (3) 推敲した文章について、なぜそのように推敲したかを説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

相手や目的に合わせた文章の書き方について、ペアワークやグループワークを通して学びを深める。

宿題として作成してきた文章については、受講生相互に添削を行い、良かった点、改善が必要な点について共有する。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	論理的な文章とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	目的のある文章 メールの書き方 【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	文の長さを読みやすさ 「一文一義」で書く 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
5	語句の選択・正確な表記【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
6	事実と意見の書き分け【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
7	ブレインストーミング、パラグラフを作る【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
8	目的のある文章？ お知らせの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート【表現）】
9	意見文を書く 主張と根拠 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
10	資料を引用する・要約をする【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
11	目的のある文章 マニュアルの作り方 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
12	文章展開を考える 指示詞・接続詞・予告と整理の表現 【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
13	レポートを書く【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
14	推敲する【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】スケジュールに従い、該当の学習部分について目を通す。前時に出された課題に取り組み、本時の学習テーマを理解する。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容を活かし推敲に取り組み。わかりやすい文章の書き方を意識し、そのスキルの向上に努める。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

授業中に課す課題やグループワークへの取り組みなど（40％）

最終課題ならびに最終レポート（60％）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野田尚史・森口稔（2014）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	朗読		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	EDb1003		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

放送などで経験したアナウンサーとしての技術を生かし、朗読やナレーションの技術を指導する。また、声に出して朗読することによって、文学作品をより深く解釈・鑑賞し、古典芸能など声の文化に触れる姿勢を伝える。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

教育人文学部 文芸文化学科 ことばの科目の一科目である。

##### 科目の概要

朗読は単に声に出して読むだけの行為ではなく、声で作品の世界を聞き手に届ける表現行為である。朗読を通してさまざまな作品を深く読み、解釈し、鑑賞する。散文や韻文をことばによる芸術作品と捉え、選ばれたことばの響きや調べ、その表現技法及び表現効果を探る。ブックレポートの提出と発表があり、事前学習も必要である。意欲のある学生の参加を希望する。

##### 授業の方法

どう朗読したら作品の世界を聞き手に届けられるか。現代の散文・韻文や古典作品を読み込み朗読する。個人で行うとともに、グループ学習なども生かす。また、作品のブックレポートを書き、朗読とともに発表し、クラスメートと評価し合う。そのことによって「読む」「話す」「書く」「聞く」という、日本語運用能力や語彙力を高め、芸術・文化に関する知識も身につけていく。

##### 到達目標

作品を深く読み、自分の観点で作品を解釈する力を身につける。正しい日本語の発声発音で作品の魅力を伝える能力、朗読の技術を修得する。古典芸能を含め、日本の声の文化に親しむ姿勢や日本語に対する豊かな感性を身につける。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2 「芸術・文化に関する知識」

#### 内容

1	「朗読」の基礎と魅力
---	------------

2	伝わる読みのポイント
3	画面にあわせたナレーション
4	画面にあわせたナレーション
5	現代の小説を朗読する
6	現代の小説を朗読する
7	ブックレポートの発表
8	古典作品の朗読
9	古典作品の朗読
10	詩の朗読
11	短歌の朗読
12	俳句の朗読
13	現代の朗読活動について
14	ブックレポートの発表
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】作品の背景や内容について調べ、熟読し、下読みをして授業に臨む。

【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

それらの、所要時間は1時間以上。準備すればするほど、能力は高まり、知識は身につく。

#### 評価方法および評価の基準

ブックレポートで、自分の観点で作品を解釈し論理的に述べる事が出来るか評価する(40%)

朗読の発表と最終テストで、正しい発音発声や朗読の基本が身についているか判断する(40%)

日頃の授業や課外学習への参加意欲から、声の文化に親しむ姿勢を持つ事が出来ているか評価する(20%)

これらを総合して評価し、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】ラフカディオ・ハーン著、池田雅之訳『新編日本の面影』(角川ソフィア文庫、2000年)、三浦しをん著『愛なき世界』(中央公論新社、2018年)などを使用する。

(参考図書)授業中に紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

声に出して読むだけでは朗読とは言えない。作品に真摯に向き合い、作者や作品の生まれた時代や背景についても調べ、作品を深く解釈することが必要である。授業中も積極的に声を出し、グループワークにも参加することのできる、意欲のある学生の受講を希望する。

科目名	精読		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	EDb1004		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

言語運用を学修する「ことばの科目」のうち、文章を深く多角的によむ訓練をおこなう科目です。

##### 科目の概要

近現代の文化や社会の礎となった古典的名著を丁寧に読み解きながら、「読む」とともに「考える」こととその方法を学修します。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストとなる文章について、その解釈やそこに関係する事柄について講師が解説し、受講者は自分の考えや意見などをリアクションペーパーに書き、次の回にその幾つかをめぐって、さらなる解説や意見交換を行いながら、授業を展開していきます。【リアクションペーパー】【レポート】

##### 到達目標

1. 感覚的な印象ではなく、文章の論理性にもとづいた読み方ができるようになる。
2. 書かれている内容に関する知識を修得する。
3. 文章から読み取ったことについて、自分の見解を説明できるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

物語をたのしむのに必要な「共感」について、それが調和ある社会を実現するためにも必要であることを説いているアダム・スミス『道徳感情論』を、ていねいによんでいきます。

「共感」するとは、そもそもどのような行為なのか？

まずは、「いかに利己的であるように見えようと、人間本性のなかには、他人の運命に関心を持ち、他人の幸福をかけたがないものにするいくつかの推進力が含まれている。」という最初の一文の意味を、みんなでしっかり考えていくことから始めます。

よんでもすぐには頭にはいってこない文章ばかりですが、ゆっくりていねいによみながら、文章読解力と思考力をすこしずつきたえていきましょう。

1回の授業でよむ分量は3頁ほどです。

1	イントロダクション：授業のすすめかたについて。
2	著者アダム・スミスについてしらべてみよう。【ネット検索】【リアクションペーパー】
3	I.i.1.「共感について」の1～3をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
4	I.i.1.「共感について」の4～10をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
5	I.i.1.「共感について」の11～13をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
6	I.i.2.「相互の共感をもつ喜びついて」の1～4をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
7	I.i.2.「相互の共感をもつ喜びついて」の5～6をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
8	I.i.3.「行為の心的傾向の適合性…」の1～3をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
9	I.i.3.「行為の心的傾向の適合性…」の4～10をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
10	I.i.4.「同じ主題の続き」の1～4をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
11	I.i.4.「同じ主題の続き」の5～7をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
12	I.i.4.「同じ主題の続き」の8～10をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
13	I.i.5.「友好的な美德と尊敬すべき徳…」の1～5をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
14	I.i.5.「友好的な美德と尊敬すべき徳…」の6～10をよむ。【討議】【リアクションペーパー】
15	ふりかえりとまとめ。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストをよんで自分のかんがえをまとめたり、わからない語句を調べたりする。(1.5時間程度)

【事後学修】授業で扱った文章をよみなおし、ノートを整理する。(1.5時間程度)

#### 評価方法および評価の基準

各授業回の討議での貢献度とリアクションペーパーの記載状況(60%)、レポート(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

リアクションペーパーに書かれた質問・意見のうち重要なものは次回授業時にコメントする。レポートは最終回に総評を解説する。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『道徳感情論』(アダム・スミス著、高哲男訳、講談社学術文庫)

【推薦書】必要に応じて授業内に案内する。

【参考図書】特になし。



科目名	読み聞かせ		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	EDb2006		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

アナウンサーとしての実務経験を生かし「読み聞かせ」の基本を指導する。また、子どものことばや心の発達と「読み聞かせ」との関連を考察する上で、教育や育児に関連した番組を担当した経験と知識をいかす。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

教育人文学部 文芸文化学科 ことばの科目 選択科目である。

##### 科目の概要

人類は家庭というものを持って以来、「語り」をやめたことはない。長く続いてきた昔話の語りと、絵本などの「読み聞かせ」を体験し、その方法論を学ぶ。絵本や昔話についての知識を深め、子どものことばの発達についても考察する。子どもの心とことばの発達と「読み聞かせ」との関連についてはさまざまな研究が行われている。子どもの成長にとって「読み聞かせ」がどのような意味を持つのか。どのように読み聞かせをすれば絵本や昔話の世界を聞き手に届けられるかを実践の中で考えていく。

##### 授業の方法

絵本や昔話、ことばの発達についての講義を行うとともに、声に出して絵本の「読み聞かせ」を実際に体験する。個人で行うとともに、グループ学習などもいかす。また、作品のブックレポートをまとめ、発表する。ブックレポートの提出と発表があり、事前学習も必要である。意欲のある学生の参加を希望する。

##### 到達目標

絵本や昔話についての広い知識が身についている。正しい日本語の発声発音でわかりやすい「読み聞かせ」を行うことができる。さらに、作品を深く読み込み、自分の観点で作品を解釈することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」

#### 内容

1	音声表現の基礎
2	伝わる読みのポイント
3	「読み聞かせ」から「読み合い」へ
4	マザリーズをいかして小さな子どもに読む
5	わかりやすい読みで大きな子どもに読む
6	絵本についてのブックレポートを発表する
7	昔話の語りについて
8	日本の昔話の法則
9	世界の昔話について
10	語りの実践
11	昔話について ブックレポートを発表する
12	読み聞かせの実践
13	子どもの発達と「読み聞かせ」についての考察
14	「読み聞かせ」からはじまるコミュニケーション
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】作品の背景や内容について調べ、熟読し、下読みをして授業に臨む。

【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

それらの、所要時間は1時間以上。準備すればするほど、能力は高まり、知識は身につく。

#### 評価方法および評価の基準

最終レポートで絵本や昔話についての知識が身についているか評価する(40%)

日頃の発表で正しい発音発声や「読み聞かせ」の基本が身についているか判断する(40%)

ブックレポートで作品を深く解釈し評価する力が身についているかを判断する(20%)

これらを総合して評価し、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小澤俊夫再話『日本の昔話』全5巻 福音館書店(1995)などを使用する

【参考図書】授業中に紹介する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

コミュニケーションの手段として、よい「読み聞かせ」をするための方法を実践的に学んでいく。絵本や昔話に興味のある人、そして積極的に声を出し、グループ活動にも意欲的に関わる学生の参加を希望する。

科目名	文章創作		
担当教員名	齋藤 秀昭		
ナンバリング	EDc2007		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

日本近代文学のアンソロジーをたびたび編集する仕事もしているため、創作のあり方や創作集の編集方法等について実践的な指導をおこなうことになる。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

・文芸文化学科の選択科目として、小説の読解や創作理論の学習、小説の 場面 創作をすることで、現代社会における文章（小説）創作の価値について実践的に学修することができる。また創作という行為は自己表現の難しさを克服する過程にもなるので、社会人に必須なアウトプット能力の涵養にも繋がるはずだ。

##### 科目の概要

・小説の 場面 を実作する過程において各自の文章（創作）を基にした相互批評（合評会）を行う。優れた文章の中から小説の技術や方法を学び、レポート等を提出してもらう。また、小説の創作理論等についても学修すると同時に、卓越した日本近現代文学の作品を読解・分析する試みも行う。

##### 授業の方法

・本科目では、創作方法や小説の理論についての講義も行うが、基本的に課題をこなしてきた受講者同士のディスカッションが中心となる。【リアクションペーパー】【レポート（表現）】【討議・討論】

##### 学修目標（到達目標）

- （１）小説の 場面 の実践的な創作や作品の合評を通じて、受講者各自の表現能力・言語運用能力を養うことができる。
- （２）優れた小説理論（創作方法）の読解・分析を通して小説の本質について考察し、読者を魅了する文章の書き方について学ぶことができる。
- （３）優れた現代文学の読解・分析を通して小説とは何かについて考えを深め、現代における小説の存在意義について考察することができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、文芸文化学科の以下の資質・能力を育成することになる。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

この授業は、教員の講義や助言を挟みながら、参加者相互のディスカッション（話し合いや意見発表）を基本とすることで、相互に言語運用能力を高め合うスタイルをとる。

1	ガイダンス、近代の小説とは何か（概論）【リアクションペーパー】【討議・討論】
2	小説およびその創作の基礎知識について【リアクションペーパー】【討議・討論】
3	対象の観察【リアクションペーパー】【討議・討論】

4	小説のリレー 【リアクションペーパー】【討議・討論】
5	小説のリレー 【リアクションペーパー】【討議・討論】
6	山田詠美「眠れる分度器」の読解と分析 【リアクションペーパー】【討議・討論】
7	山田詠美「眠れる分度器」の読解と分析 【リアクションペーパー】【討議・討論】
8	学校を書く【リアクションペーパー】【討議・討論】
9	断片から書く【リアクションペーパー】【討議・討論】
10	村上春樹「職業としての小説家」の読解と分析 【リアクションペーパー】【討議・討論】
11	村上春樹「職業としての小説家」の読解と分析 【リアクションペーパー】【討議・討論】
12	村上春樹「職業としての小説家」の読解と分析 【リアクションペーパー】【討議・討論】
13	人物スケッチ 【リアクションペーパー】【討議・討論】
14	人物スケッチ 【リアクションペーパー】【討議・討論】
15	まとめ、レポート提出【リアクションペーパー】【討議・討論】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】示された課題（図書・作品）に関するコメントシート（リアクションペーパー）を事前に完成させておく。最後の授業ではレポートの提出もある。（各授業に対して60分）。

【事後学修】相互批評を踏まえた上で自分の文章を反省的に見直しておく。またコメントシート（リアクションペーパー）の返却を受け、自らの修正箇所を吟味し、授業全体の内容を復習しておく。（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

- ・実際に創作した 場面 作品を提出してもらう。また合評会での相互評価の成果もレポートしてもらう。
  - ・現代文学作品及び小説創作理論を読解する際には、該当作品についてコメントシート（リアクションペーパー）を基にした報告をしてもらう。
  - ・創作物の提出60%、授業への参加度を含む提出物やレポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。
- 【フィードバック】提出された課題は全て添削・点検し、次回以降の授業で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

##### 【教科書】

村上春樹『職業としての小説家』（2016・10、新潮文庫、630円＋税）

山田詠美『ぼくは勉強ができない』（1996・3、新潮文庫、400円＋税）

##### 【推薦書】

清水良典『2週間で小説を書く！』（2006・11、幻冬舎新書、740円＋税）

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ジャーナリズムの文章		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	EDc2008		
学 科	教育人文学部 (E) - 文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

新聞社での取材、編集業務経験。新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットのニュース記事・原稿の構成やポイントなどを解説し、表現方法・内容を指導できる。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

専門科目の学びを助け内容の理解を深めるための基礎となる科目である。日本語の理解力と表現力をアップを狙いとする。特に事実を伝える表現技法を学ぶ。

##### 科目の概要

事実を正確に伝える表現方法を学ぶ。特に時間的、空間的な制約のもとでの表現方法を身につけることは大学、社会で必ず役に立つ。ジャーナリズム (新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどにより、時事的な問題の報道・解説・批評などを伝達する活動の総称 = 広辞苑より) の文章を参考にしながら授業を進める。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどのニュース原稿を読み込み、分析しながら事実を正確かつ迅速に伝える手法を学ぶ。さらに取材を踏まえた表現方法を身につける。【グループワーク】【レポート】

##### 到達目標

1. 新聞記事などニュースを正確、迅速に理解することができる。
2. 事実を正確、迅速に表現し他者に伝えることができる。
3. ビジネス文章を読み書きすることが苦にならなくなる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

1	オリエンテーション
2	ニュース記事・原稿の読み方・分析 1 (活字メディア) 【討議・討論】
3	ニュース記事・原稿の読み方・分析 2 (放送メディア) 【討議・討論】
4	ニュース記事・原稿の読み方・分析 3 (インターネットメディア) 【討議・討論】
5	ニュース記事・原稿の書き方 1 (いわゆる「逆三角形型」文章の解説)
6	ニュース記事・原稿の書き方 2 (5W2Hの重要性)
7	取材に基づいた文章作成 1 (取材のポイント解説)

8	取材に基づいた文章作成 2 (実践)
9	成果発表 【プレゼンテーション】
10	取材に基づいた文章作成 3 人物インタビューの手法
11	取材に基づいた文章作成 4 人物インタビューの原稿作成 【グループワーク】
12	取材に基づいた文章作成 5 人物インタビューの原稿作成 【グループワーク】
13	成果発表 【プレゼンテーション】
14	課題に基づく取材・原稿執筆
15	成果発表、まとめ 【プレゼンテーション】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】新聞、テレビ、インターネットなどのニュース記事をチェックする(60分)

【事後学修】授業で学んだことを整理し、自らの課題をまとめる。文章の修正(60分)

#### 評価方法および評価の基準

テーマごと講義では理解を確認するためのレポート課し(7回×5点=35点)、成果発表(3回×15点=45点)と平常点20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定はなし

【推薦書】指定なし

【参考図書】新聞、雑誌など

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	実用書道（硬筆）		
担当教員名			
ナンバリング	EDc1009		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

教科及び指導法に関する科目（中学校国語科書写）

応用として、[デザイン書道（硬筆）]の科目へつながる。

##### 科目の概要

活字と手書き文字の違いを正しく理解し整えて書く。

楷書の基本法則を理解して自分で整えて書くことができるようにする。行書の正しい省略法を学ぶ。

書くことが好きな学生、文字を整えたいとの動機がある学生には向いている。

教職課程としては中学校書写の指導法を理解する。

硬筆書写技能検定2級程度の内容を含むので、希望者は受験するとよい。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義とプリントによる実技練習。、テキストによる演習。

##### 到達目標

字形の法則や理論を学び、整った文字が書くことができる。

履歴書や手紙など実用書を書くことができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

- 2 文学・芸術・文化に関する知識
- 4 芸術・文化に関する表現方法

#### 内容

1	活字と手書き文字の違い・最新の筆記用具準事情
2	字母から学ぶ平仮名・間違いやすい筆順と部首
3	平仮名・漢字を外形にあてはめて学ぶ

4	楷書の基本1 (点画の書き方、カタカナ・数字)
5	楷書の基本2 (編と傍の書き方と部首)
6	楷書の基本3 (部首かるたで理解を深める)
7	楷書の横書き (掲示物)
8	履歴書の書き方を理解する
9	履歴書の作成
10	行書の書き方
11	行書に合う平仮名
12	平仮名の連綿
13	縦書き作品
14	実用書 (一筆箋・手紙の書き方)
15	暑中見舞いはがきと宛名書き

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの文字練習をする (30分) 理論課題を読んで調べる。(30分)

【事後学修】授業のまとめ、テキストの演習を進める。(60分)

#### 評価方法および評価の基準

授業への取り組み姿勢20点は積極的に参加して練習に取り組んでいるか、毎授業時の提出物60点はリアクションペーパーを提出しているか、実技課題は文字を整えて書けているか、理論小テストの出来の3つによる。作品20点は、実用書を仕上げられたかによる。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物を返却返答し、学習の理解を深められるようにする。

授業中もできる限り添削指導する。

#### 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】開講時に指示する。

まる得マガジンMOOK「クセ字が直る美文字レッスン帳」  
適宜プリントを配布する。

【推薦書】『ペン字精習』上下 (狩田巻山・日本習字普及協会)

【参考図書】常用漢字書きかた字典 (宮澤正明編・二玄社)

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

筆記用具やテキストを忘れずに持参すること。

習った理論を覚え、実技を復習することにより、実践にいかすことができるようになる。

科目名	実用書道（毛筆）		
担当教員名			
ナンバリング	EDc1010		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態	演習	単 位 数	
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格・・・<墨の香り>ただよう教室で、紙に向かい一心に筆を運ぶ実技中心の科目です。

科目の概要・・・書道を学ぶための基礎体力作りは、古典の名品の「臨書」です。限られた時間ですが「中国唐時代の楷書」や書聖王羲之の行書「蘭亭序」などを手本とします。

同時に自分で書きたい言葉を選んで書く「創作作品」の制作、短冊やうちわに楽しく毛筆で書く時間も設けます。

授業の方法（ALを含む）・・・課題に関する解説後は、指導教員が実際に教壇で筆を持ち書いて見せます。その後、各自の書道経験に応じて個別に丁寧な添削を行い、清書完成に導きます。

到達目標・・・筆の扱いに慣れ、漢字の楷書、行書を正しく美しく書くことが出来るようにします。

臨書で培った力で、自分が選んだ言葉を書く「創作作品」の制作が出来るようにします。

毎回芳名帳に自分の氏名を書いたり、細字の練習にもなる写経などを通じ、社会に出ても必ず役に立つ筆文字の美しさを習得します。

#### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 文学・芸術・文化に関する知識
- 4 芸術・文化に関する表現方法

#### 内容

1	授業の進め方について 書道用品（文房四宝）について 各自の書道歴の聞き取りをする。
2	自分の好きな漢字1文字を書く。
3	楷書の臨書 「孔子廟堂碑」解説と練習 楷書で名前を書く。
4	「孔子廟堂碑」清書提出 楷書の臨書 「九成宮醴泉銘」解説と練習
5	「九成宮醴泉銘」清書提出 楷書の臨書 「孟法師碑」解説と練習
6	「孟法師碑」清書提出 「漢字創作作品」の草稿をねる。
7	「楷書創作作品」を書く。
8	行書の臨書「蘭亭序」解説と練習 行書で名前を書く。

9	「蘭亭序」清書提出
10	「漢字とひらがな」が融合した作品。 解説と練習。
11	「漢字とひらがな」が融合した作品 清書提出
12	「七夕短冊作品」を書く。七夕にちなんだ和歌・俳句など。
13	「般若心経」を写経する。 写経の由来を学ぶ。
14	「般若心経」の写経を完成させる。
15	「うちわ作品」を書く。 授業のまとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】書道用品が揃っているか確認しておく。

【事後学修】授業で書いた課題について、配布プリントで歴史的背景などを読み理解を深める。

#### 評価方法および評価の基準

各課題の清書作品による評価 70% 平常点 30%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

課題プリント毎回配布

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	くらしの中のことば		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	EDd1011		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

アナウンサーとして放送番組の制作に携わってきた経験をいかし、放送制作の実態を伝えるとともに、個人がメディアとどのように関わればよいのか、社会生活の中の様々な場面でどのようにことばを使い、コミュニケーションをとっていきべきかなどについて考察していく。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

教育人文学部 文芸文化学科 ことばの科目領域 選択科目の一科目である。

##### 科目の概要

私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、個人が情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。暮らしの中の日本語、とくに情報メディアで使われていることばに着目する。放送の仕事の内容や歴史、メディアを取り巻く環境の変化を学び、一人ひとりがどのようにメディアとか関われば良いのかを考えていく。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義を行うだけでなく、グループ学習で学生同士が議論し学び合う。毎回のリアクションペーパーで振り返りを行う。

##### 到達目標

自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢が身につく。

放送などのメディアで使われていることばや内容を正しく評価できる。

暮らしの中の日本語に関心を持ち、場面や状況に応じて正しく運用できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、文芸文化学科の以下の資質・能力を育成することになる。

-2「文学・芸術・文化に関する知識」

#### 内容

1	ガイダンス 情報メディアとことば
2	メディア・リテラシーについて
3	放送の歴史と放送博物館

4	放送は何を伝えてきたか～ドキュメンタリーを分析する
5	放送は何を伝えてきたか～テレビドラマを分析する
6	放送は何を伝えてきたか～生活情報番組を分析する
7	ディレクターの仕事とことば（ゲスト講師）
8	アナウンサーの仕事と日本語
9	放送関連の文化イベントについて
10	アーカイブス事業と戦争証言
11	インターネットのことば～情報発信者として
12	プレゼンテーションについて
13	プレゼンテーション
14	生活の中のことばとコミュニケーション
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。所要時間は45分以上。

【事後学修】授業を振り返る。日ごろからメディアの日本語に興味を持って調べる。課題に取り組むなどで、約1時間。

#### 評価方法および評価の基準

メディアと賢く関わる姿勢が身についているか、また番組などメディアに対して評価する能力が身についているか、社会人としてさまざまな状況の中で日本語を正しく運用できるか、日頃の授業への取り組み(30%)レポート(30%)期末レポート(40%)などから、総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】授業で紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

放送の番組もさまざまなプレゼンテーションも、人に何かを伝えるという意味で共通性がある。自分でじっくり考えて情報を取捨選択し、発信する姿勢を身につけることが大切である。そのために、授業中も受け身ではなく積極的に議論に参加する姿勢が望まれる。

課外授業や外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

科目名	手話表現		
担当教員名	越後 節子		
ナンバリング	EDd1012		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

コミュニティーセンター等の手話講師としての実務経験を持つ講師が、手話の実技を主とする「手話表現」の授業を担当する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科1～3年の選択必修科目「ことばの科目」群のうち、「話す」領域の科目である。

##### 科目の概要

手話言語を修得することにより、日本手話の文法を知り、異文化を理解する心を養う。マイノリティーであるろう社会の存在を認識することも本科目の一つのねらいである。

##### 授業の方法（ALを含む）

手話は視覚的にインプットし、そしてアウトプット（表現）する言語である。この授業では、各回のテーマに沿って、日本手話のネイティブスピーカーである講師が手話で学生と会話することで進めていく。また、ろう文化について学ぶ機会も設ける。【実技】【リアクションペーパー】

##### 到達目標

- (1)手話で自己紹介ができる。
- (2)ろう社会について考え、自分の意見を述べることができる。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2文学・芸術・文化に関する知識、
- 3多様性の理解・協働の技法

#### 内容

1	オリエンテーション・ガイダンス
2	名前を表現しましょう【実技】
3	家族のことを話しましょう【実技】
4	出身地、住所を表現しましょう【実技】
5	略歴を話しましょう【実技】
6	講義「手話とろう文化」【リアクションペーパー】
7	職業のことを話しましょう【実技】
8	タイムテーブルを話しましょう【実技】
9	カレンダー（曜日）のことを表現しましょう【実技】

10	ゲストスピーカーと話しましょう【実技】
11	通学のことを話しましょう【実技】
12	食習慣のことを話しましょう【実技】
13	スポーツのことを表現しましょう【実技】
14	旅行のことを話しましょう【実技】
15	まとめ【実技】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回目           【事前準備】テキスト・推薦図書入手して読んでおく。〔60分〕  
                   【事後学習】授業で聞いたことを復習してノートを整理する。〔60分〕
- 2回目以降【事前準備】各回の授業範囲に沿って、テキスト内容を予習する。〔60分〕  
                   【事後学習】授業で学んだ内容を自分で復習して覚え込む。〔60分〕

#### 評価方法および評価の基準

実技試験 80%、リアクションペーパーを含めた平常点 20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)実技試験(80/80)

到達目標(2)平常点(20/20)

【フィードバック】リアクションペーパーにはコメントをつけて翌週以降の授業時間内に返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】木村晴美・市田泰弘『改正新版 はじめての手話』生活書院

【推薦書】現代思想編集部『ろう文化』青土社

木村晴美『日本手話と日本語対应手話 間にある「深い谷」』生活書院

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この授業は履修人数を20名に制限します。抽選登録になる可能性がありますので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席してください。また、座席はアーチ型にしますので、授業の最初に椅子を移動しセッティングしてください。

科目名	表現技法		
担当教員名	松永 修一、星野 祐子		
ナンバリング	EDd1013		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

「ことばの科目」に相当する科目である。文芸文化学科の学びの基盤となる「ことば」に関心を持つと共に、社会に出てからも役立つ技術の基礎を学ぶ科目でもある。

##### 科目の概要

社会で求められるスキルとしての効果的なプレゼンテーション技術と表現技能の習得をめざす。単なるプレゼンテーションツールの使い方だけでなく、「ストーリーテリング」「情報の伝達」「知識の共有」「問題解決による説得」「インスピレーション」について理解を深める。また、対話による最適解の発見、思考の構造化、あらたなアイデアの創出手法を学ぶ。更に、マインドマップを使った情報整理、対話の視覚化も体験してもらう。

##### 授業の方法（ALを含む）

アイデアを形にする手法について、実践をもとに理解を深める。様々なツールを活用しながら、協働的に学ぶ意義を理解する。

自分の想いを伝える確かな表現力を身に付ける。実際に話し合い活動を行うなかで、課題解決に資する話し合いのスキルを高める。

##### 到達目標

社会で求められるスキルとしての効果的なプレゼンテーション技術、様々な表現技法の習得をめざす。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」

-2「課題発見・考察」

-3「価値観の創造、発信」

## 内容

1	ガイダンス・インストラクション 授業の型とゴールを知る
2	わかりやすいの正体をつかむ
3	わかりやすさの技術マスター
4	シンプルプレゼンと創造的プレゼンの基礎 1
5	シンプルプレゼンと創造的プレゼンの基礎 2
6	シンプルプレゼンと創造的プレゼンの実践
7	中間振り返り
8	自分の想いを伝える確かな表現力の基礎 1
9	自分の想いを伝える確かな表現力の基礎 2
10	自分の想いを伝える確かな表現力の発展
11	課題解決のための話し合いのスキル 1
12	課題解決のための話し合いのスキル 2
13	表現を楽しむ 1
14	表現を楽しむ 2
15	総振り返り

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

## 評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り...1~7ポイントポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント) 課題...3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に紹介予定

【推薦書】井庭崇、『プレゼンテーション・パターン』、慶応義塾大学出版会、2013年

【参考図書】授業中に紹介予定

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	ことばあそび		
担当教員名	星野 祐子、松永 修一		
ナンバリング	EDd1014		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

「ことばの科目」に相当する科目である。文芸文化学科の学びの基盤となる「ことば」に関心を持つと共に、普段意識しない日本語表現を学問的に捉える視点を身につける。また、ことばの響きを体験しながら学ぶ科目である。

##### 科目の概要

日本古来からある「ことばあそび」の歴史について知り、その表現の仕組みや面白さを理解する。あわせて、日本語の音声や表記、語彙に注目しながら、現在購入可能な「ことばあそび」カード各種の特徴や面白さを学問的に考察する。後半は目的や相手に合わせた「ことばあそび」をグループで考案、実作し、プレゼンテーションを行う。

##### 授業の方法（ALを含む）

前半は「ことばあそび」の歴史を、各種資料をもとに理解しグループで特徴を指摘する。続いて、現在、支持されている「ことばあそび」カードの特徴についてグループで検証する。後半は、各グループが「ことばあそび」を作成することを最終目標とし、対象、ねらい、遊び方などを検討し、実作を行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【創作、制作】

##### 学修目標（到達目標）

- （1）「ことばあそび」の歴史について、説明することができる。
- （2）現在入手することのできる「ことばあそび」を取り上げ、日本語の知識を活用しながら、その特徴を指摘することができる。
- （3）「ことばあそび」を実作し、その特徴や面白さを、当該科目を履修している人以外に説明することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識

#### 内容

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
---	-----------------------

2	受講者のことばあそびの経験を共有してみよう【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	ことばあそびの歴史（上代～中古）【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	ことばあそびの歴史（中世～近世）【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	ことばあそびの歴史（近代～現代）【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	世界のことばあそび【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	現代のことばあそびに触れてみよう【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	現代のことばあそびの特徴をプレゼンテーションしてみよう【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
9	「わたしたちのことばあそび」の計画を立てる【リアクションペーパー】【グループワーク】【創作、制作】
10	計画の発表ならびに改善【リアクションペーパー】【グループワーク】【創作、制作】
11	「わたしたちのことばあそび」を作ってみる（下書き）【グループワーク】【創作、制作】
12	「わたしたちのことばあそび」を作ってみる（仕上げ）【グループワーク】【創作、制作】
13	制作したことばあそびで遊んでみる【グループワーク】
14	制作したことばあそびを紹介してみよう【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
15	まとめ【グループワーク】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で扱った内容について復習し、身近なことばあそびに関心を持つ。あわせてその表現効果についてミニレポートとしてまとめる（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で取り上げた表現内容について、他の事例がないかを探してみる（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

グループワークへの貢献度（20%）、プレゼンテーションなどの取り組み（20%）、制作物への評価（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

指定なし

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

学生相互に学び合い、グループワークを重視する科目です。積極的な受講を期待します。

科目名	多文化スタディーズ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	EDe1015		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

##### ワークショップ科目

座学だけではなく、他者・多文化理解、共感的分析、多様性の理解、協働の技法を体験を通して学ぶ。

##### 科目の概要

多様性の理解、協働の必要性、自己・自文化理解を、留学生と一緒に学ぶことによって客観的分析、メタ認知能力をのぼす。協働を通して、他者・多文化の理解、共感力の向上の機会を自分たちで創りだす。

##### 授業の方法（ALを含む）

国際学生（留学生）と共にそれぞれの関心事に沿った調査・研究活動を行うものである。

参与観察や密度の高い聞きとりなど狭義のフィールドワークと、サーベイの実施や資料の分析などを加えた広義のフィールドワークを行う。

##### 到達目標

フィールドワークを通じた協働体験による気づきを中心とした学びを期待する。

相互承認の理解と、自己・自文化理解、他者・多文化理解を深めることを目標とする。

また、フィールドワークでの体験や実感に根ざしたアイデアを言語化しoutputできる能力向上も目標とする。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

- 第1回 インストラクション(授業の進め方と評価について)
- 第2回 コミュニティデザインとは
- 第3回 デザイン思考と問題発見解決
- 第4回 身の回りのワクワクを探す(課題発見)
- 第5回 リサーチの手法と調査票作成
- 第6回 インタビュー技法
- 第7回 統計的手法を学ぶ
- 第8回 データをどう読むか
- 第9回 写真、動画、音声の採り方
- 第10回 調査計画とチームビルディング
- 第12回 Outputを考える
- 第13回 修正からの学び
- 第14回 報告会
- 第15回 振り返り

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。

(事前・事後ともに各回60分)

## 評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化(60%)、適宜行う課題の評価(30%)、最終テストの評価(10%)。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント) 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に紹介予定

【推薦書】授業中に紹介予定

【参考図書】授業中に紹介予定

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	日本語学入門		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	EDg1025		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の必修科目であり、日本語学に関して包括的な内容を学ぶ。私たちにとって身近な日本語を、客観的に観察・分析することで、普段は意識していない日本語の規則や表現工夫を探っていく。加えて、言語を研究する基本的な手法を身につける。

##### 科目の概要

講義では、日本語についての具体的かつ身近な事例を取り上げながら、日本語学の基礎的事項を解説する。また、それぞれのトピックに関連したミニレポートを課し、知識と理解の定着をはかる。

##### 授業の方法（ALを含む）

テキストで提示されているトピックに関連して、身近な事例を取り上げながら授業を行う。マンガや歌詞、映画などを資料にし、ペアワークやグループワークを通じて日本語の表現効果を理解する。また、リアクションペーパーに対するコメントは翌週に行い、共有すべき内容については別途プリント等を配布する。

【ミニテスト】【リアクションペーパー】【グループワーク】

##### 学修目標（到達目標）

- (1) 身近な日本語に興味・関心を持ち、その表現効果を説明することができる。
- (2) 日本語の持つ規則性と体系性を理解し「日本語らしさ」を具体的に指摘することができる。
- (3) 日本語の特質を理解し、日常生活の中での「日本語らしさ」を客観的に言及することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

#### 内容

日本語学の基本について、身近な言語事象（アニメやマンガ、歌謡曲）を例にしながら学習を進める。

ペアワークやグループ活動を取り入れながら、日頃、無意識に使用している日本語の特徴や法則について、討議を手がかりに主体的に考えてみる。

授業で取り上げた言語現象が、実際の生活においてどのように運用されているのか、自らの言語生活を振り返ることで、理解を深めてもらいたい。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	日本語の音と形1（発音のしくみ・特殊拍）【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	日本語の音と形2（五十音図・音素と異音）【リアクションペーパー】【グループワーク】
4	日本語の音と形3（アクセント・漢字かな交じり文・短縮語）【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（知識）】
5	日本語の文法1（活用・格助詞）【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	日本語の文法2（使役・受身）【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	日本語の文法3（テンス・モダリティ・条件）【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	日本語らしい表現1（省略・「は」と「が」）【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	日本語らしい表現2（とりたて助詞・「のだ」）【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	日本語らしい表現3（授受表現・敬語・日本語学習者の日本語）【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	日本語の変化と多様性1（ら抜きことば・現代語に残る古典語）【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	日本語の変化と多様性2（日本語の地域差・方言の圏分布）【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	日本語の変化と多様性3（ことばの位相差・現代敬語の特徴・ことばに潜む差別）【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	日本語の世界とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】学習内容に関連して、自らの日本語使用や身近な日本語を振り返る。専門用語や術語については、事前に辞書等で調べる。（各授業に対して60分）

【事後学修】学習内容に関連して、規範的な日本語使用と実際の日本語使用の相違に関心を持ち、その理由や背景について考えてみる。（各授業対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

グループワークなどの授業への参加度（20%）、授業終了後、ならびに授業中に課す小テスト（20%）、期末テスト（60%）とし、総合評価 60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】庵功雄他（2003）『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本文学史 A		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	EDg2027		
学 科	教育人文学部 (E) - 文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科「日本語・日本文学コース」および教職課程コースの必修科目であり、「日本文学史 B」「日本文学史 C」と共に日本文学の歴史に関する基本的な知識を学修し、学科の学びの基盤を作るための科目である。

##### 科目の概要

古代日本の歴史や文化の流れをたどりながら日本文学の始まりとその展開について学ぶ。古代文学の代表的な作品を時代順に取り上げ、それぞれの作品が生まれた必然性と文学史的な価値を知る。また、部分的に原文に触れ古典文学の醍醐味を味わう。

##### 授業の方法 (ALを含む)

本科目では講義による解説を中心とし、毎回の授業においてリアクションペーパーによるフィードバックを取り入れる。【リアクションペーパー】

##### 到達目標

- (1)日本の古代文学史についての基礎的知識を修得し、文章で説明できる。
- (2)古代日本人の精神活動の歴史を理解し、現代と比較考察できる。
- (3)古典文学に興味関心を持ち、主体的に作品を読んで授業に参加できる。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2文学・芸術・文化に関する知識 -1自己・自己文化理解、客観的分析 -1情報収集・分析

#### 内容

この授業は講義を基本とし、リアクションペーパーを活用しながら学びを深めていく。

1	ガイダンス・文学のはじまり
2	上代文学の時代区分と歴史的背景【リアクションペーパー】
3	現存最古の書『古事記』【リアクションペーパー】
4	最初の和歌集『万葉集』【リアクションペーパー】
5	その他の上代文学【リアクションペーパー】
6	中古文学の時代区分と歴史的背景【リアクションペーパー】
7	勅撰和歌集の誕生～『古今集』を中心に【リアクションペーパー】
8	作り物語の世界～『竹取物語』を中心に【リアクションペーパー】

9	歌物語の世界～『伊勢物語』を中心に【リアクションペーパー】
10	日記文学の誕生～『土佐日記』と『蜻蛉日記』【リアクションペーパー】
11	女流日記文学の世界～『和泉式部日記』『紫式部日記』その他【リアクションペーパー】
12	後宮文化の隆盛～『枕草子』と『源氏物語』【リアクションペーパー】
13	歴史物語の誕生～『栄華物語』と『大鏡』【リアクションペーパー】
14	その他の中古文学・まとめ
15	学修内容の確認・復習

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 1回 【事前準備】LiveCampusに提示した事前課題を行う。〔60分〕  
【事後学習】授業ノートを作成し、疑問点を解決しておく。〔60分〕
- 2～14回 【事前準備】各回で扱う作品についてテキストや関連図書を読み、語句を調べる。〔60分〕  
【事後学習】授業中ノートを整理し、疑問箇所は辞書や参考書等で調べて解決する。〔60分〕
- 15回 【事前準備】古代文学全体について復習し授業ノートを整理する。〔60分〕  
【事後学習】古代日本文学史の授業ノートを完成させる。〔60分〕

#### 評価方法および評価の基準

筆記試験80%、平常点20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)筆記試験(60/80)、平常点(5/20)

到達目標(2)筆記試験(15/80)、平常点(10/20)

到達目標(3)筆記試験(5/80)、平常点(5/20)

【フィードバック】筆記試験の結果を返却し問題の解説をして、学習の振り返りを行う。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】池内輝夫他監修『新総合図説国語 新訂版』東京書籍

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

やむをえない事情で試験を欠席した場合は追試を、平常点を満たした上で合格点に届かなかった場合は再試を一度だけ行います。

科目名	日本文学史 B		
担当教員名	東 聖子		
ナンバリング	EDg2028		
学 科	教育人文学部 (E) - 文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格： [ 文芸文化学科ディプロマポリシーの1・2 ]

日本文学を歴史的推移とともに、その概要を学ぶ基本的な内容である。日本文学の大きな流れの中で、中世・近世文学史の < 戦乱の世を背景とした無常観と幽玄の美意識 > < 泰平の世を背景とした浮世的享楽観と多様な美意識 > という時代風潮を、巨視的に学ぶ。歴史学・美学・日本学・芸道論・美術史その他の領域をふまえて学んでいこう。

科目の概要： 中世・近世文学のそれぞれを、序・韻文・散文・芸能の順で学んでゆく、そしてそれぞれ最後に実際の文学作品を楽しく読んでゆく。絵巻物や扇面図や大和絵・浮世絵などでビジュアルに味わい、能・歌舞伎などで芸能美を楽しみたい。

授業の方法 (ALを含む)： 毎回、< パワーポイント > で簡潔にまなび、< ビジュアルなテキスト > を眺めながら、各時代の特色・作家・作品を学ぶ。最後に < リアクション・ペーパー > を書いて、個性的で簡潔なまとめの文章化をマスターする。

到達目標： 第一に、< 中世文学史 > は鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代という戦乱の世であり、< 近世文学 > は江戸時代という泰平の世の文学史で対照的である。序において各文学史の特色をまとめ、そのあとで韻文・散文・その他という順序で学んでゆく。第二に、もっとも中世らしい文学、もっとも近世らしい文学を読みながら、その根底にある思想性と日本語の独自の美を楽しみたい。第三に、それぞれの時代背景の影響を色濃くうけて、さまざまな個性の作者が固有の文学を残している。時代精神と文学の関係を考えながら、「中世とは何か？近世とは何か？」というテーマを自分なりに、追いかけていこう。また文学史を学ぶ意義もあわせて考えてゆきたい。最後にグローバルな視野で、日本文学・文化の独自の価値を認識したい。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

1 - 世界の中の日本文学を知る。 - 1 中世・近世の日本文学の特質の分析。 - 3 芸術の多様性の理解と発信。

内容

【授業の方法】パワーポイントとテキストと折々に参考プリントや映像を利用しつつ、解説する。また 学生は毎回、リアクションペーパーを書いて提出し、そこには詩歌等の創作的作品も記述することがある。理性と感性を統合しつつ学ぶ。さらに、最後の授業では、全員で本質的なテーマについてディベートを行いたい。図書館でグループワークもしたい。

1	< 文学史とは >
2	< 中世文学史 > の序 - 時代区分・時代背景・特色
3	A 韻文 ・ 和歌

4	韻文 ・連歌、俳諧の連歌 ・歌謡
5	B 散文 ・擬古物語 ・歴史物語 ・軍記物語
6	散文 ・説話文学 ・日記、紀行、随筆 ・御伽草子
7	C その他 (能、狂言・法語、五山文学)
8	作品鑑賞(DVD等)
9	<近世文学史>の序 - 時代区分・時代背景・特色
10	A 韻文 ・和歌 ・狂歌
11	韻文 ・俳諧 ・川柳
12	B 散文 ・仮名草子 ・浮世草子 ・前期読本 ・洒落本
13	散文 ・草双子 ・後期読本 ・合巻 ・滑稽本 ・人情本
14	C その他 (浄瑠璃、歌舞伎・国学) 図書館でグループワーク
15	作品鑑賞(DVD等) / 全員でディベート<中世と近世>

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日本の中世と近世に関する文学作品に親しみ、歴史にも興味を持ってテキストを自習する。また、テキストの漢字も予習しておく。

【事後学修】中世文学あるいは近世文学において興味ある作品を選んで、<文庫本>や<文学全集>で作品を読む醍醐味を学ぶ。さらに、図書館で事典類や、各種全集や、図録などで知識を深める。

事前・事後の自習(30分 2回)。

#### 評価方法および評価の基準

通常の授業態度(20点)、リアクションペーパーとレポート(80点)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業の時に指示する。毎回、プリントを配布する。

【推薦書】いずれも、開講時に指示する。テキストはよりビジュアルなものを選ぶ。

【参考図書】『中世文学史』『近世文学史』(至文堂)(学灯社)その他

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ご自分の好きな中世・近世の日本文学の作品と出会ってください。気になった作品は図書館で読んでみましょう。

科目名	日本文学史C		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	EDg2029		
学 科	教育人文学部(E)-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法(ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

日本文学史のうち近代文学(明治~昭和)の歴史について学修する科目です。

##### 科目の概要

明治から昭和までの小説を中心とする文学の歴史と、それに関する社会状況、出版状況などについて解説します。

##### 授業の方法(ALを含む)

教科書とパワーポイントを用いて講義を行い、学期末にミニテストをしながらふりかえりとまとめを行います。【ミニテスト】

##### 到達目標

1. 日本近代文学史に関する基礎知識を身につける。
2. 日本における「小説」の捉え方について理解する。
3. 今まで読んでいなかった近代文学作品をよんでみる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」

#### 内容

1	開化期
2	新文学

3	浪漫主義
4	日清戦争後文学
5	新世代の登場
6	自然主義
7	日露戦争後文学
8	学閥
9	モダニズム
10	「ぼんやりした不安」の時代
11	危機をはらんだ時代
12	近代文学の再出発
13	安定化する戦後
14	ミニテスト（2回実施）とふりかえり
15	多様化する価値観

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書をよみ、自分なりにノートを作成する。（1.5時間程度）

【事後学修】授業で行った内容（プリント、ノート）を整理しなおす。（1.5時間程度）

#### 評価方法および評価の基準

2回目のミニテスト（100%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

ミニテスト1回目を返却し、それについて授業内で解説とふりかえりを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『原色新日本文学史』（秋山虔・三好行雄編著、文英堂）

【推薦書】必要に応じて授業内で提示します。

【参考図書】特になし。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

やむを得ない事情でミニテストを受けられなかった場合のみ、該当者にたいして別日程で補講を実施します。

科目名	言語学入門		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング	EDg1042		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の学びの基盤となる「ことば」に関心を持つと共に、社会に出てからも役立つ技術の基礎を学ぶ科目でもある。

##### 科目の概要

特に気づくこともなく使っている身の回りのことばやコミュニケーションを、何で？ どうして？を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとする。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義だけでなくワークショップスタイルの対話型授業で行う。

大人の学び方、自律的学びの確立を目指す

学び合い、リフレクションのルーティン化

##### 到達目標

1. 単なる知識の伝授だけでなく、ことばを通して考えるプロセスを訓練する。
2. 身近なものの中に問いを立てることの習慣化を目指す。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 日本語運用能力・語彙力・文字知識
- 1 自己・自文化理解、客観的分析
- 1 情報収集・分析

#### 内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語学のイメージ、ことばについての思い込みを探る
- 第3回 言語学が重視しているものとは
- 第4回 言語学の考え方
- 第5回 言語は人間だけのもの？
- 第6回 言語の音声について
- 第7回 世界中の言語音を記述する方法
- 第8回 文法と意味
- 第9回 振り返りとリサーチの手法1
- 第10回 世界の言語はいくつあるのか
- 第11回 言語の歴史を考える
- 第12回 美しい言語、汚い言語
- 第13回 言語学は役に立つのか
- 第14回 リサーチの手法2
- 第15回 振り返りと意味づけ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1週間の中でことばやコミュニケーションについての疑問や発見をまとめておく。次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。

（事前・事後ともに各回60分）

#### 評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60％）、適宜行う課題の評価（30％）、最終テストの評価（10％）。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント） 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で説明します。

【推薦図書】黒田龍之介『はじめての言語学』講談社現代新書

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

科目名	日本文学の名作		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング	EDg3043		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

学科の日本語・日本文学分野の自由選択科目で、日本文学における名作を取り上げる。文学作品をとおして学科の学びの基盤となる基礎的な知識と洞察力を育成するための科目である。

##### 科目の概要

日本文学の名作として『源氏物語』を読む。最初に『源氏物語』の全体構成を把握したうえで、物語の概要を辿り、部分的に原文を音読し原作の表現を味わいながら読み進めていく。漫画資料や映像などの現代メディアも大いに利用しつつ授業を展開していく。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義による解説を中心とし、毎回の授業においてリアクションペーパーによるフィードバックを取り入れる。また途中で、レポートによる自発的な物語読解も併用する。【リアクションペーパー】【レポート】

##### 到達目標

- (1)文学作品理解のための基礎的知識を習得し、説明できる。
- (2)文学作品を読解し、主題について分析・評価したことを文章で表現できる。
- (3)日本文学に対する洞察力を身につけ、課題発見と考察に積極的に取り組める。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は文芸文化学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2文学・芸術・文化に関する知識 -1自己・自文化理解、客観的分析 -2課題発見・考察

#### 内容

使用するテキストは、物語中のいくつかの場面をピックアップしながら全体の概要がわかる形になっている。以下、物語の筋に沿って、各時間の授業のタイトルを書いておく。

1	ガイダンス
2	『源氏物語』の全体像【リアクションペーパー】
3	光源氏誕生（桐壺巻）【リアクションペーパー】
4	雨夜の品定め（帚木巻）【リアクションペーパー】
5	中流女性との恋（夕顔巻）【リアクションペーパー】
6	紫の君の発見（若紫巻）【リアクションペーパー】
7	不器用な姫君（末摘花巻）【リアクションペーパー】【レポート】

8	車争い（葵巻）【リアクションペーパー】
9	生霊出現（葵巻）【リアクションペーパー】
10	龍神の予言（須磨巻・明石巻）【リアクションペーパー】
11	六条院の栄華（初音巻）【リアクションペーパー】
12	女三宮降嫁（若菜巻）【リアクションペーパー】
13	若者の狂恋（柏木巻）【リアクションペーパー】
14	最愛の女性の死（御法・幻巻）【リアクションペーパー】
15	光源氏没後の世界（宇治十帖）【リアクションペーパー】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回・2回 【事前準備】「源氏物語」についての文学史的知識や粗筋について調べる。〔60分〕

【事後学習】授業で紹介した参考文献をいくつか入手し、読んでみる。〔60分〕

3回～14回【事前準備】テキストや参考文献で各回の巻の概要や現代語訳を読み、粗筋や登場人物の人間関係についてまとめる。〔60分〕

【事後学習】授業で扱った巻の内容を自分で読み直し疑問点を調べる。また授業と並行して全訳本や参考文献を積極的に読む。〔60分〕

15回 【事前準備】これまでに読んだ作品の内容を復習し物語全体の流れを把握する〔60分〕。

【事後学習】作品全体の主題について自分の考えをまとめる。〔60分〕

#### 評価方法および評価の基準

レポート60点、リアクションペーパーを含む平常点40%点で、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標(1)レポート(20/60)、平常点(20/40)

到達目標(2)レポート(20/60)、平常点(10/40)

到達目標(3)レポート(20/60)、平常点(10/40)

【フィードバック】リアクションペーパーに書かれた質問事項等について、毎回の授業で回答し、内容理解を深める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】ビギナーズクラシックス日本の古典『源氏物語』角川書店編

【参考図書】『源氏物語』の参考文献は多数あるので、授業で適宜紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

半期の授業で『源氏物語』全巻を読破することは難しいので、各自が現代語訳等で自主的に『源氏物語』を読むことを期待します。

科目名	多文化理解入門		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	EDh0048		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の専門科目を学ぶ導入として、どのようなトピックや学問世界があるのかを知るための科目です。

##### 科目の概要

文学や芸術を主な題材としながら、文化研究に関するさまざまなトピックを学び興味の幅を広げ、問題意識を育みます。

##### 授業の方法（ALを含む）

毎回パワーポイントを使いながらトピックについて解説し、リアクションペーパーでコメント・質問を募集、次の回の前半においてそのリアクションペーパーへの回答を行います。都合により授業の順序が入れ替わる場合もあります。

##### 到達目標

1. 文化学に関する基礎知識を修得する。
2. 学問的な考え方を修得する。
3. 自分で博物館や美術館などを訪れ、積極的に文化に触れることを習慣づける。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

#### 内容

1	ノートテイキング講座
2	芸術とは何か

3	芸術で世界を支配できるか
4	価値基準
5	風景と内面の発見
6	小説の言葉
7	待つ
8	流れか凝縮か
9	物語と情報
10	象徴主義
11	負けない戦い方
12	小説
13	日本近代小説
14	心理小説
15	総括

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分が興味・関心のある芸術作品について、自分なりの考察をノートに書きとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】予習ノートに記載した自分の考察に対して、授業で取り上げたトピックを参考にしながら、再考察を書きとめる。（各授業に対して60分）

#### 評価方法および評価の基準

リアクションペーパー50点、学期末レポート50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーのいくつかは毎回の授業でとりあげ回答する。提出されたレポートにはコメントを付し、後期（新学期）に返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『新総合図説国語』東京書籍 ISBN978-4-487-36125-0

【推薦書】特に指定しませんが、授業時に紹介されることがあります。

【参考図書】特に指定しませんが、授業時に紹介されることがあります。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	多文化理解概論		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	EDh1049		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は1年次の「共通必修科目」であり、「多様な文化に関する専門知識を身につけ読書に取り組む」、「多様な文化に関する専門知識を自ら収集する」、「多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深めることができる」ことが求められている。『多文化理解入門』を踏まえて文化・文芸に関する理解をさらに深め表現することが必要であり、「コース必修科目」や「選択科目」での学びの基盤となる。

##### 科目の概要

『多文化理解入門』を土台とし、人間の豊かな想像力が生み出した多様な言語芸術、文化事象を概説するとともに、世界の文学、芸術を幅広く現代的な観点から研究・読解するための様々なアプローチを考えていく。国の枠を超えて、文学、芸術を、歴史的、社会的、哲学的、思想的に研究し、読解を試みるための枠組みを提供し、個々の研究への応用を考え、専門分野に対する理解の深化を促す。

##### 授業の方法

本科目では、講義による解説を中心として、グループによるディスカッションやペアワークを織り交ぜながら授業を進める。【グループワーク】【討議・討論】【レポート（知識）】【リアクションペーパー】【レポート（表現）】

##### 到達目標

- (1) 芸術文化に関して幅広い知識を身につけて文章で説明する。
- (2) 文化や社会の歴史的な背景に対する理解を深め、具体的に述べ表現する。

##### ディプロマポリシーとの関係

この科目は文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 文学・芸術・文化に関する知識
- 3 比較文化的考察

#### 内容

1	ガイダンス
2	文学作品、芸術作品を読み解くとは。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
3	作品論、作家論について【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
4	研究のアプローチ 1ー児童文学の場合グループワーク【討議・討論】【リアクションペーパー】
5	研究のアプローチ 2ー小説の場合グループワーク【討議・討論】【リアクションペーパー】
6	研究のアプローチ 3ー大衆小説の典型グループワーク【討議・討論】【リアクションペーパー】

7	研究のアプローチ 4ー演劇、詩の場合【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
8	研究のアプローチ 5ーメルヘン、ファンタジーの場合【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
9	研究のアプローチ 6ー絵画と文学作品の場合【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
10	歴史的・社会的背景からのアプローチ【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
11	原作と映像の比較によるアプローチ【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
12	文学・芸術作品研究の実践 1【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート(表現)】
13	文学・芸術作品研究の実践 2【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
14	伝統芸能・芸術鑑賞【リアクションペーパー】
15	まとめ【レポート(知識)】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [ 60分 ]

【事後学修】授業内で課題を提示 [ 60分 ]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [ 60分 ]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [ 60分 ]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [ 90分 ]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [ 90分 ]

#### 評価方法および評価の基準

各授業回の指示する課題への取り組み ( 30% ) とレポート課題 ( 70% ) で評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。レポート課題は返却の上、解説をする。

#### 教科書・推薦書 ( 著者名・書名・出版社名 )

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので、欠席した場合は各自でプリントアウトして確認すること。

科目名	日本と異文化		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	EDh2050		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

日本の文学と美術を学ぶための専門基礎科目です。学芸員課程の専門必修科目にもなります。

##### 科目の概要

古代から近世までの日本の歴史を、海外文化移入の観点から論じていきます。

日本の文学史や美術史を学ぶ上で必要となる、歴史の基礎知識を学びます。

概説的な内容なので、高校で日本史を選択しなかった人でも大丈夫です。

2回のミニテストを通じて、理解の定着をはかります。

##### 授業の方法（ALを含む）

プリントとを使いながら講義をおこないます。学期途中で2回のミニテストをおこないます。

##### 到達目標

1. 東アジアを中心とする日本史について、基礎的な知識を修得する。
2. 美術や文学を史的な観点から考察できるようになる。
3. 日本文化について多文化共生の観点からとらえられるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

#### 内容

1	「日本」「日本人」を相対化する
---	-----------------

2	漢字からみる古代日本1
3	漢字からみる古代日本1
4	仏教口伝1
5	仏教口伝1
6	空海1
7	空海2
8	ふりかえり【ミニテスト】
9	日宋貿易1
10	日宋貿易2
11	日明貿易1
12	日明貿易2
13	南蛮貿易1
14	南蛮貿易2
15	ふりかえり【ミニテスト】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業で取り上げる日本史の内容について、インターネットなどを利用しながら、自分でノートにまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業中に書きとめたノートを、読みやすい内容にまとめ直す。(各授業に対して60分)

#### 評価方法および評価の基準

ミニテスト2回(100%)、その合計で60%以上を合格とします。

ミニテスト1(50/100)

ミニテスト2(50/100)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定はありません。毎回プリントを配布します。

【推薦書】特にありませんが、授業内で紹介することがあります。

【参考図書】高校までに使用した日本史の教科書や参考書があれば、それを読み直してください。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

やむを得ない事情によりミニテストによるふりかえりを受けられなかった場合は、該当者のみ別日程で補講を行います。

科目名	多文化社会とコミュニケーション		
担当教員名	山下 悠貴乃		
ナンバリング	EDh2051		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は、文芸文化学科の「多文化理解・共生科目」領域の選択科目です。

多文化共生、異文化間コミュニケーションに関する基礎的な内容を学びます。

異なる文化的背景を持つ人々とお互いに認め合いながら理解し合う方法について考えることを通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身に付けます。

##### 科目の概要

近年、日本に住む外国人の数は増加し、コンビニや飲食店の店員として、学校のクラスメイトとして、地域の隣人として、文化的背景が異なる人とともに暮らしていくことが日常になりました。異なる文化的背景を持つ人々がお互いを理解し、尊重しあいながらともによりよい社会を作り上げていくにはどうすればいいのでしょうか。

本科目では、日本における多文化共生の現状と、取り組みを紹介し、それを踏まえて自分の考えをまとめたり、グループで課題への解決法をディスカッションしたりします。また、異なる文化的背景を持つ人とのコミュニケーションについて、事例を挙げながら、どのようにすれば互いに理解し合い、伝え合うことができるのかをグループで考えます。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義による事例紹介をもとに、グループでのディスカッションなどを行う。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【レポート（表現）】

##### 到達目標

1. 多文化共生についての知識を深め、日本社会の現状と課題を理解し、解決策について自分の考えを持つ。
2. 自分と異なる文化的背景を持つ人とお互いに理解しあい、意思疎通するための方法についての知識を深め、身近なところから実践できる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1日本語運用力・語彙力・文字知識、 -3比較文化的考察

1	オリエンテーション
2	多文化共生社会とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
3	多文化共生社会への取り組み【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
4	異なりを考える1 「人」ってだれのこと？【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	異なりを考える1 郷に入っては郷に従え？ 【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	異文化摩擦が起きるとき【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	異文化理解とは【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	コミュニケーションスタイルを決めるもの【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】
9	言語コミュニケーション1 褒める・謝る【リアクションペーパー】【グループワーク】
10	言語コミュニケーション2 断る・自己紹介【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	非言語コミュニケーション1 表情・アイコンタクト【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	非言語コミュニケーション2 ジェスチャー・しぐさ【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	異文化コミュニケーションスキル【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	言語の平等性【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
15	まとめ【レポート（表現）】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書や授業使用パワーポイントデータ、配布した資料に目を通し、そこで出たキーワードについて調べ、A4 1枚以内にまとめる。（各授業に対して45分程度）

【事後学修】授業内容について振り返り、気づいたことや疑問に思ったことをまとめる。授業に関連する事柄を新聞や参考図書などで調べ、まとめる。あわせてA4 1枚程度。（各授業に対して45分程度）

#### 評価方法および評価の基準

到達目標1：

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：15/30%、適宜課す課題：30/60%

到達目標2：

授業への参加度、取り組み：5/10%、毎回のリアクションペーパー：15/30%、適宜課す課題：30/60%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業で返却する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】八代京子・世良時子「日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル」（三修社）2,200円＋税  
 その他、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするか、ノートパソコンやタブレットを持参すること。

【推薦書】授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	多文化共生ワークショップ		
担当教員名	松永 修一、新嶋 良恵、山下 悠貴乃		
ナンバリング	EDh2052		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

##### ワークショップ科目

座学だけではなく、他者・多文化理解、共感的分析、多様性の理解、協働の技法を体験を通して学ぶ。

##### 科目の概要

多様性の理解、協働の必要性、自己・自文化理解を、留学生と一緒に学ぶことによって客観的分析、メタ認知能力をのぼす。協働を通して、他者・多文化の理解、共感力の向上の機会を自分たちで創りだす。

##### 授業の方法（ALを含む）

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。おすすめです。

国際学生（留学生）と共にそれぞれの関心事に沿った調査・研究活動を行うものである。

参与観察や密度の高い聞きとりなど狭義のフィールドワークと、サーベイの実施や資料の分析などを加えた広義のフィールドワークを行う。

##### 到達目標

フィールドワークを通じた協働体験による気づきを中心とした学びを期待する。

相互承認の理解と、自己・自文化理解、他者・多文化理解を深めることを目標とする。

また、フィールドワークでの体験や実感に根ざしたアイデアを言語化しoutputできる能力向上も目標とする。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

1	ガイダンス インストラクション 学びの型を学ぶ
2	アイスブレイク お互いを知る
3	身の回りの多文化・異文化を考える 異文化間能力とは
4	Finding Common Ground プロジェクト1
5	Finding Common Ground プロジェクト2
6	Finding Common Ground プレゼン&フォードバック
7	Finding Common Ground プロジェクト3
8	中間リフレクション
9	多文化協働プロジェクト 企画立案
10	多文化協働プロジェクト プラン発表準備
11	多文化協働プロジェクト 発表
12	自由について考える
13	自由の相互承認とは
14	これからのアクションを考える
15	総リフレクション

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】次の授業の前日までに事前課題を確認し指示に従うこと。

【事後学修】授業後48時間以内に指定のURLからリフレクションシートにアクセスし登録すること。振り返りとして48時間以内に学びの内容や各自の気づきをGoogleフォームでの提出。フォーマットはインストラクションで解説（事前・事後ともに各回60分）

## 評価方法および評価の基準

Googleフォームでのリフレクションをポイント化（60%）、適宜行う課題の評価（30%）、最終テストの評価（10%）。振り返り…1~7ポイントポイント、まとめ&感想…1~3ポイント、Self-evaluation 1~3ポイント） 課題…3~8ポイントとし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】Google formでインタラクティブに適宜フィードバックを行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に紹介予定

【推薦書】坂本利子編 『多文化間共修』 学文社 2017

【参考図書】授業中に紹介予定

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

座学による知識の享受だけでなく、Step by Stepで自律的な学びの姿勢を身につけ、学生同士の学び合いの機会を活かしながら成長していきましょう。

情報のインプットだけでなく、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えます。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけとなると良いですね。

科目名	海外文学の名作		
担当教員名	落合 真裕		
ナンバリング	EDh2055		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

無

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

本科目は多文化理解・共生コースの選択必修科目であり「多様な文化に関する専門知識を身につけ読書に取り組む」、「多様な文化に関する専門知識を自ら収集する」、「多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深めることができる」ことが求められる。その他の多文化理解・共生コース選択必修科目の「世界のファンタジー」や「多文化社会とユーモア」と関連がある。

##### 科目の概要

イギリス文学の代表的作品を鑑賞し、その背景にある思想、文化に目を向けながら作品に表れている人生観、世界観を探っていく。特に「ユーモア」や「笑い」という観点から小説や演劇、映画を読み解くことで、イギリス文学・文化への理解を深め考察する。

##### 授業の方法

本科目では、講義による解説を中心として、ディスカッションやペアワークを取り入れた授業を行う。【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

##### 到達目標

- (1) 多種多様な文化を読み解き説明することができる
- (2) 他者、他文化とを比較しながら自己・自文化を理解するとともに自らの考えを述べるすることができる
- (3) 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し表現することができる

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

- 2 文学・芸術・文化に関する知識
- 3 比較文化的考察
- 1 情報収集・分析

#### 内容

1	ガイダンス
2	「ユーモア」の定義。【討議・討論】【リアクションペーパー】
3	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」（1）【討議・討論】【リアクションペーパー】
4	英国の「ユーモア」と日本の「ユーモア」（2）【討議・討論】【リアクションペーパー】
5	紳士階級の「ユーモア」【討議・討論】【リアクションペーパー】
6	英国のコメディの「ユーモア」【討議・討論】【リアクションペーパー】
7	英文学作品における「ユーモア」の特徴（1）【討議・討論】【リアクションペーパー】

8	英文学作品における「ユーモア」の特徴(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】
9	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(1)【討議・討論】【リアクションペーパー】
10	『ロミオとジュリエット』における「ユーモア」(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】
11	『ハムレット』における「ユーモア」(1)【討議・討論】【リアクションペーパー】
12	『ハムレット』における「ユーモア」(2)【討議・討論】【リアクションペーパー】
13	英国映画・ドラマにおける「ユーモア」【討議・討論】【リアクションペーパー】
14	総まとめ 【グループワーク】【討議・討論】【リアクションペーパー】
15	理解度の確認【レポート(知識)】【レポート(表現)】

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】シラバスの内容を確認 [60分]

【事後学修】授業内で課題を提示 [60分]

2回～14回

【事前学修】各授業回で取り上げる作家や作品、キーワードについて事前に調べA41枚にまとめる。 [60分]

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で扱った内容をのみならず授業内での意見交換を通じて出てきた疑問点や問題点について調べまとめる。 [60分]

15回

【事前学修】すべての授業のふりかえりと復習。 [90分]

【事後学修】授業の総まとめの内容をA4用紙1-2枚にまとめる。 [90分]

#### 評価方法および評価の基準

各授業回の指示する課題への取り組み(30%)とレポート課題(70%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1. 各授業回の指示する課題への取り組み(10%/30%)、レポート課題(30%/70%)

到達目標2. 各授業回の指示する課題への取り組み(10%/30%)、レポート課題(30%/70%)

到達目標3. 各授業回の指示する課題への取り組み(10%/30%)、レポート課題(10%/70%)

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し学習理解を深められるようにする。レポート課題は返却の上、解説をする。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず必要に応じて参考図書、推薦図書などについて授業時に紹介する。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で使用するパワーポイントのデータを授業用フォルダに格納するので欠席した場合は各自プリントアウトすること。

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング	EDi2065		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書 / 学芸員資格		

#### 実務経験の有無

無し

#### 実務経験および科目との関連性

無し

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

文芸文化学科の学位授与方針の3に該当する。司書、ならびに学芸員の必修科目として、生涯学習の理論と実際に関する基礎知識を学ぶ

##### 科目の概要

生涯学習社会における社会教育の本質と意義、法と制度をはじめ、学校教育・社会教育・家庭教育の連携、社会教育施設の役割や運営と評価、市民活動と社会教育など、人々の多様な学習活動の諸相について幅広く概説し、市民の視座から生涯学習の全体像を考える。主体的に生涯学び続けることの意義と、多様な学習活動への支援の方法を考える。

##### 授業の方法（ALを含む）

教材や課題はLive Campusで提示する。一部のテーマについてグループ討議を経て発表を行う【討議・討論】【グループワーク】【プレゼンテーション】

##### 学修目標（＝到達目標）

- ・学校教育、社会教育、家庭教育ならびに地域コミュニティの連携に基づく、生涯学習社会の意義と役割について、法的制度的側面と地域活動等の実際の側面の双方から理解することができる。
- ・地域における生涯学習の具体的なあり方について実態について認識することができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシー以下資質能力を育成することを目的とする。

## 内容

1	生涯学習とはなにか
2	生涯学習の理念と理論
3	生涯学習の内容
4	生涯学習の方法
5	学校教育と生涯学習
6	学校教育と地域連携
7	社会に開かれた教育課程を考える（グループワーク）
8	社会教育制度
9	社会教育施設の役割
10	社会教育を支える人材
11	生涯学習支援の動向と課題
12	まちづくりと生涯学習
13	新座市における生涯学習とコミュニティ
14	新座市民総合大学に関するワークショップ
15	まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキストのうち、授業に関係する部分についての予習（1時間以上）

【事後学修】授業における課題の振り返り（1時間以上）

## 評価方法および評価の基準

毎時間の小レポートを30%とし、最終課題70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

・学校教育、社会教育、家庭教育ならびに地域コミュニティの連携に基づく、生涯学習社会の意義と役割について、法的制度的側面と地域活動等の実際の側面の双方から理解することができる。（50%）

・地域における生涯学習の具体的なあり方について実態について認識することができる。（50%）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会」田中雅文他（学文社）

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日本美術史		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング	EDi2066		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

有

#### 実務経験および科目との関連性

美術館で日本美術担当の学芸員として勤務経験を有する教員が、日本絵画史について講義する。

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

芸術・文化関連の専門知識を主体的に身につける科目の一つとして、日本美術史を概説する。彫刻・絵画を中心に多くの作例のスライドを取りあげて、造形芸術のスタイルを分析する方法を身につけ、美術史学の基礎を学修する。

##### 科目の概要

日本に仏教が伝来した西暦538年より江戸時代末までの日本美術の変遷と展開を、流れとして学ぶ。

##### 授業の方法（ALを含む）

授業時間の前半で歴史的背景や美術史上の基礎的な概念を講義し、後半ではスライド投影した作品の造形的特徴を分析する。

また、適宜見学会も実施し、実際の美術作品を鑑賞することで学修を深める。

##### 到達目標

歴史的知識と美術的知識をリンクさせて理解することができる。各時代の美術様式の特徴を把握する。美術様式の展開を史的に述べることができる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

-2日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている -3多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる -2自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる

#### 内容

この授業は講義を基本に、見学会、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	飛鳥時代
3	奈良時代
4	平安時代
5	平安時代
6	平安時代

7	鎌倉・南北朝時代
8	室町時代
9	室町時代
10	室町時代
11	桃山時代
12	江戸時代
13	江戸時代
14	江戸時代
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業で扱う時代・テーマの作品を画集等で確認しておくほか、機会があれば美術館になるべく足を運んで実作品を鑑賞する（各授業に対して60分）

【事後学修】ノートを見返して、わからないことは調べておく。また、関心をもった事項については、書籍などで理解を深める（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（歴史的知識と美術的知識をリンクさせて理解することができる20%、各時代の美術様式の特徴を把握する20%、美術様式の展開を史的に述べるができる20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で適宜指示する

【参考図書】『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房、2019年

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	西洋美術史		
担当教員名	小林 明子		
ナンバリング	EDi2067		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

##### 科目の性格

西洋美術史概説。各時代の歴史的、文化的特徴を確認した上で、その時代を代表する美術作品をスライドで鑑賞しながら、様式上の特徴や図像内容を確認し、西洋美術史の基礎を学修する。

##### 科目の概要

古代から20世紀までの西洋美術の流れを概説する。

##### 授業の方法（ALを含む）

絵画、彫刻、建築などの具体的な作品を通して美術史に関する基礎知識を習得するとともに、各時代の特徴や鑑賞のポイントを学修する。また、適宜見学会も実施し、実際の美術作品を鑑賞することで学修を深める。

##### 到達目標

- ・美術作品が制作された背景、表された主題や意味内容を理解し、西洋美術史に関する基本的な知識を身につける。
- ・美術作品について、造形や表現の特徴を言葉で説明する。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

「世界の芸術、文化に関する幅広い知識を身につけている」「多種多様な文化を読み解くことができる」「自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる」

#### 内容

1	イントロダクション
2	古代、初期キリスト教時代
3	ロマネスク、ゴシック
4	初期ルネサンス
5	イタリア・ルネサンス1
6	イタリア・ルネサンス2

7	イタリア・ルネサンス3
8	北方ルネサンス
9	マニエリスム
10	バロック1
11	バロック2
12	ロココ美術、新古典美術、ロマン主義
13	近代1
14	近代2
15	まとめ

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】美術館などで本物の作品を鑑賞する機会をできるだけ多くもつようにする。また、入門書や美術全集、インターネットを活用して情報収集することを心掛ける（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業内容を復習し、わからないことは調べておく。また、関心をもった事項について、書籍などで理解を深める（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、期末レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない

【推薦書】授業内で適宜指示する

【参考図書】高階秀爾監修『西洋美術史』美術出版社、2002年

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	文化を考える		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	EDi1070		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

なし

#### 実務経験および科目との関連性

なし

#### ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

芸術・文化科目領域の専門選択科目になります。芸術文化に関する基礎的な科目です。

##### 科目の概要

洗練された高級なもの、教養として身に着けるべきもの、というようなイメージを持たれたり、振る舞いや信念を基礎づけるものとされたりもする「文化」について考察し、文学・芸術などの文化事象にかかわる自らの姿勢を検証し、そうした文化事象を理解するための基盤を作ることを目的とします。翻訳語として誕生した「文化」という語の考察からはじめ、「文化」の定義や範疇、概念の変遷、担い手や主体性の問題、文化の融合・衝突、政治・社会とのかかわり、物質的なものと精神的なものとの関係など、多方面から「文化」についてアプローチしていきます。

##### 授業の方法（ALを含む）

講義と学生同士のディスカッション、プレゼンテーションで行います。

##### 到達目標

「文化」について根源的に考えることを通じて、各自の「文化」の概念を獲得し、「考える」技術を身に着けます。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的としています。

- 1自己・自文化理解、客観的分析
- 2他者・多文化理解、共感的分析
- 3比較文化的考察

#### 内容

- (1) 「文化」という言葉
- (2) 人間と動物
- (3) 環境世界と情報
- (4) 工作する人間
- (5) 遊戯する人間
- (6) 言葉と文化
- (7) 物語する人間
- (8) 記録する人間
- (9) 文化と記号

- (10) 文化を記述する
- (11) 植民地主義と文化
- (12) 文化の接触と複合
- (13) グローバリズムとローカリズム
- (14) 文化の衝突
- (15) まとめ

講義の内容・順序は必要に応じて変更することがあります。

#### 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】あらかじめ提示される授業概要についてキーワードや事項、興味・関心のあることがらを調べておいてください（各授業に対して60分）。

【事後学修】各自授業内容を振り返ってノートに整理し、分からなかった点や興味を持ったことがらを調べましょう（各授業に対して60分）。

#### 評価方法および評価の基準

筆記試験 7 割、レポート・提出物など 3 割とし、総合評価 6 0 点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する予定です。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しません。読書レポートの対象はできるだけ購入して下さい。

参考図書は必要に応じて授業中に紹介します。

参考文献：

そのほか参考文献は授業中随時紹介します。

#### 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング	EDj1084		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

##### 科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

##### 授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

##### 到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

### パターン 1

#### 1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

### パターン 2

#### 1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

### パターン 3

#### 1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

## 評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	小林 実		
ナンバリング	EDj1084		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

##### 科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

##### 授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

##### 到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジュメ作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

### パターン 1

#### 1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

### パターン 2

#### 1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

### パターン 3

#### 1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

## 評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	EDj1084		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

##### 科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

##### 授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

##### 到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

### パターン 1

#### 1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

### パターン 2

#### 1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

### パターン 3

#### 1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

## 評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	EDj1084		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

##### 科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

##### 授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

##### 到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

### パターン 1

#### 1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

### パターン 2

#### 1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

### パターン 3

#### 1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

## 評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	星野 祐子		
ナンバリング	EDj1084		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

##### 科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

##### 授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

##### 到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジюме作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

### パターン 1

#### 1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

### パターン 2

#### 1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

### パターン 3

#### 1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

## 評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎演習		
担当教員名	新嶋 良恵		
ナンバリング	EDj1084		
学 科	教育人文学部（E）-文芸文化学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

#### 実務経験の有無

無

#### 実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

##### 科目の性格

4年生で履修する「卒業研究」に向けて、専門科目におけるゼミナールの基本を学ぶ科目です。

##### 科目の概要

各クラス毎に異なるテーマが設けられ、受講生は自分が所属するクラスにおいて、担当教員から研究方法について解説をうけながら、自分たちで調査・分析・発表・討論の練習を行います。

##### 授業の方法（ALを含む）

各担当教員の計画にしたがって、データ・資料収集、資料分析、発表、討議・討論などの基礎訓練を行います。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【サービスマーケティング】【PBL】【フィールドワーク】

##### 到達目標

1. テーマに沿った情報収集、資料収集ができるようになる。
2. 資料やテキストの簡単な分析ができるようになる。
3. 収集した情報にもとづいたレジュメ作成、発表、表現活動等ができるようになる。
4. テーマにそった討議・討論ができるようになる。

##### ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、文芸文化学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1「日本語運用能力・語彙力・文字知識」
- 2「文学・芸術・文化に関する知識」
- 3「多様性の理解、協働の技法」
- 1「自己・自文化理解、客観的分析」
- 2「他者・多文化理解、共感的分析」
- 3「比較文化的考察」
- 4「芸術・文化に関する表現技法」
- 1「情報収集・分析」
- 2「課題発見・考察」
- 3「価値観の創造、発信」

## 内容

担当教員により多少の違いはありますが、概ね以下のいずれかのようなスケジュール・パターンを基本として行うこととします。

### パターン 1

#### 1. ガイダンス

2~6. テーマや課題に関する解説講義。

7~12. 調査・資料収集

13~14. 発表・討論

15. まとめ

### パターン 2

#### 1. ガイダンス

2~3. テーマや課題に関する解説講義。

4~14. 発表担当者による発表とグループ討議。

15. まとめ

### パターン 3

#### 1. ガイダンス

2~7. テーマAにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

8~14. テーマBにもとづく調査、発表担当者による発表、グループ討論。

15. まとめ

## 各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の担当する課題に関する情報収集、調査準備。(1.5時間)

【事後学修】授業のふりかえりと、調査等の補足。(1.5時間)

## 評価方法および評価の基準

毎回の授業における取り組み姿勢と貢献度(50%)、最終発表もしくは成果物作成の出来(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表については授業内でコメントする。成果物の場合は、コメントを付して次年度初頭に返却する。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特になし。

【推薦書】必要に応じて授業内で紹介する。

【参考図書】筆ようんに応じて授業内で紹介する。

## 学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など